

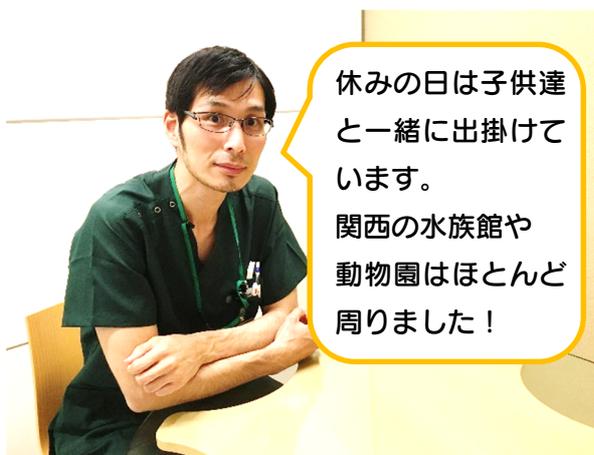
マックシールプレス (2019)



循環器内科 黒住 祐磨医師が着任

循環器内科には常勤医が計3名在籍

異病院は内科系の診療態勢を強化し、これからも救急医療に貢献します。



休みの日は子供達
と一緒に掛けて
います。
関西の水族館や
動物園はほとんど
周りました！

【所属学会・資格】

日本内科学会認定内科医・総合内科専門医
日本循環器学会認定循環器専門医
日本心血管インターベンション治療学会認定医
日本集中治療医学会専門医
日本救急医学会救急科専門医
日本プライマリーケア学会認定医・認定指導医
ICLS インストラクター

【ご挨拶】

4月から循環器内科・心臓血管センターで勤務しております。患者様に対して、親切で丁寧な医療を提供する事を目標に診療を行っております。これまで培ってきた救急医療、集中治療の経験を活かして、循環器疾患に対する加療を行っていきたく思います。微力ながら地域医療に貢献したいと存じますので、どうぞよろしくお願い致します。

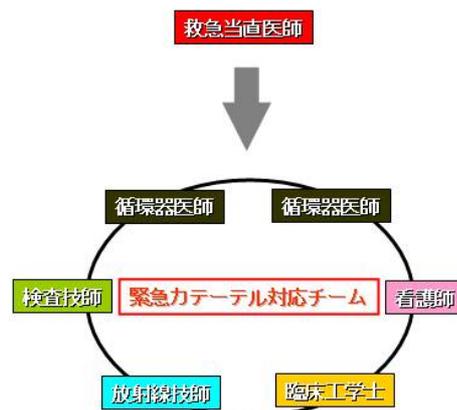
心臓血管センターの紹介

当センターは狭心症や心筋梗塞などの虚血性心疾患に対応しています。なかでも急性心筋梗塞などは発症してから如何に速く治療が行えるかで予後が変わってきます。当センターでは循環器医師・看護師・検査技師・放射線技師、臨床工学士で対応チームを作っており、24時間体制で心臓カテーテル治療が可能です。

もちろん緊急対応だけでなく、慢性期の外来治療なども万全で、心臓血管だけでなく末梢血管についての検査・治療も行っています。

【24時間体制で

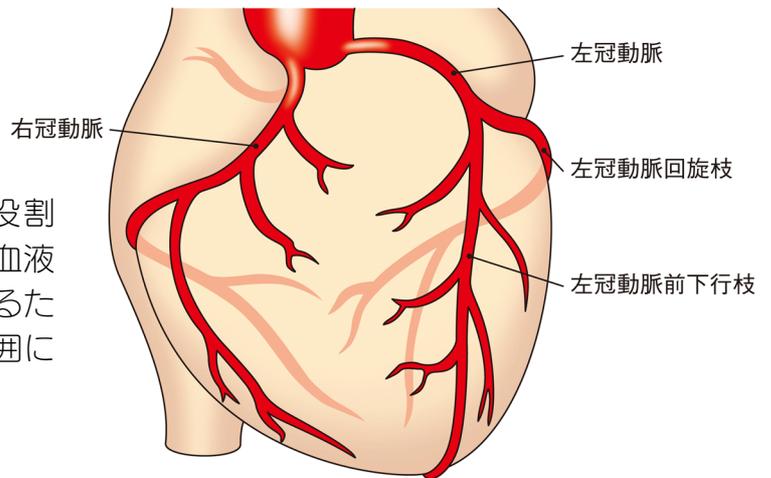
迅速にチームを招集】



心筋梗塞とカテーテル治療を黒住医師が詳しく解説

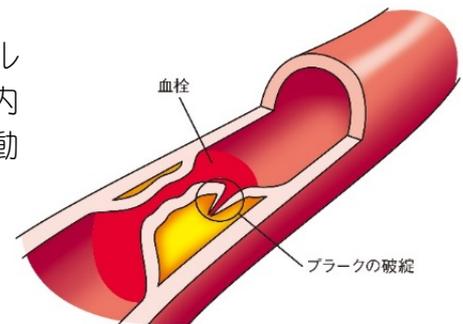
① 冠動脈が・・・

心臓は全身に血液を送るポンプの役割をする臓器ですが、当然心臓自体も血液を必要とします。心臓に血液を届けるための血管を冠動脈といい、心臓の周囲に張り巡らされています。



② 動脈硬化などの原因で・・・

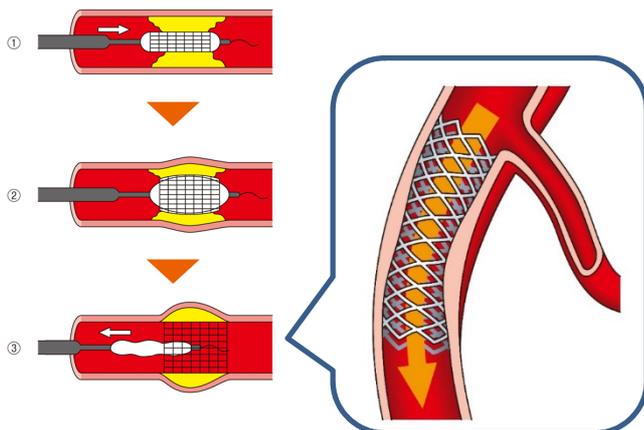
冠動脈の中に出来たプラーク（悪玉コレステロールが脂質として大量に隆起したもの）によって血管内が狭くなり、血管壁が固くなります。この状態が動脈硬化です。



③ 血栓によって詰まってしまい・・・

動脈硬化が起こっている血管内で、高血圧やストレスなどでプラークが破綻し、それを治そうと血小板があつまります。これが血栓です。血栓によって血管内が閉塞し血流が途絶えてしまう状態が「心筋梗塞」です。一度死んでしまった心筋は再生することがないので、心筋梗塞に対する治療は、いかに素早く治療を行うかが重要とされています。治療としては、カテーテル治療（経皮的冠動脈形成術）が行われることが多く、閉塞してしまった血管をカテーテルという医療器具を使って再度血流が流れるようにします。

当院で行っている治療



先端にバルーン（風船）を取り付けたカテーテルでバルーンを内側から膨らませて血管を押し広げる方法（[バルーン療法](#)）や、再び血管が詰まってしまう場合（再狭窄）もあるため、これを防ぐために、[ステント](#)と呼ばれる器具を使うこともあります。ステントは金属を網の目状にした筒で、バルーンで血流を再開させた後に血管の中に留め置き、血管を内側から補強します。

巽健康フォーラムの様子がJ:COMで放送されました

5月25日（土）、池田市民文化会館にて第14回巽健康フォーラムを開催いたしました。各種検査の体験コーナーや医師からの講演など、盛りだくさんの内容を企画。約200名の来場者で盛況のうちに終わることが出来ました。当日の様子が、J:COM大阪の「デイリーニュース北摂（5/28放送）」に取り上げられました。アプリをダウンロードすれば、無料で後から何度でも視聴できますので、スマホやタブレットをお持ちの方は是非、ご覧下さい！！



下記アプリをダウンロードすれば、過去の放送分も無料で見れます。

外出先でもスマホ・タブレットでチェック！



地域の“今”をお届けする全く新しい地域情報アプリ
「ど・ろーかる」登場！

※デイリーニュースはJ:COM全エリアの過去一週間分を何度でも視聴可能。



無料★

コミュニティチャンネルで放送している地域ニュースや、特別番組をライブ配信！札幌にお住まいの方が福岡の番組を見られるなど、お住まいのエリアに限らずJ:COM全エリアの番組が楽しめます。

アプリの詳細、
ダウンロードはコチラ

ど・ろーかる

検索



★通信料はお客さままでのご負担となります。

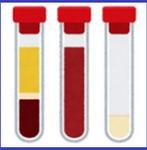
土・日は総集編！

地元情報満載
デイリーニュース
7 DAYS

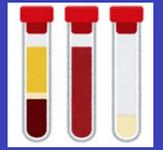
関西12エリアのデイリーニュース総集編。
これを見れば、関西各地の1週間の動きが分かる！

土曜・日曜 午前 10:00～
午後 8:00～

※各エリアの放送よりセレクトしてお届けしております。
ご了承ください。



臨床検査科の取り組みを紹介 ～迅速な診断をサポートし、患者様の負担軽減へ～



臨床検査科では、血液や尿・便等多くの検体を扱う検体検査と、心電図や超音波検査など患者様を直接検査する生理検査、健診関連の検査を行っています。検体検査部門は 診断や治療効果判定に必要な結果を正確に且つ、迅速に診療現場へ届けられるよう工夫しています。今回はそんな臨床検査技師たちの業務や取り組みをご紹介します。



■正確な検査結果が評価されました

検査科では日々、検査機器のメンテナンスを行い、試薬の調整や検査室内の温度管理、水質管理を行っています。昨年は全国的な精度管理審査に参加し、化学検査、免疫血清検査、血液検査、一般検査、輸血検査の計 126 項目のすべてにおいて精度が高いと評価を得ました。

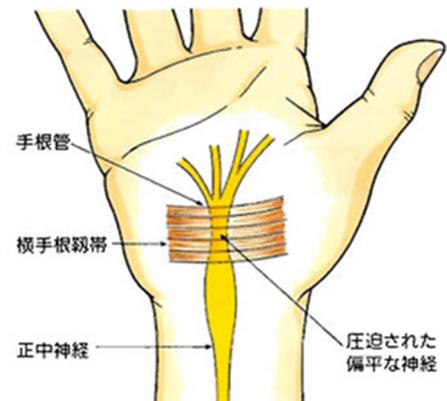
■採血検査（基本項目）は、約30分以内に結果がわかります

臨床検査科では毎月至急・緊急検査の報告時間調査を行い日々業務の改善を行っています。業務手順の見直しや職員の教育を充実させ、現在では採血検体が検査室に到着後、平均で27.8分後での報告が可能となっています。



後日でしか結果がわからない医療機関の場合、その結果を聞くために再度受診しなければなりません。当院では可能な限り当日の診断ができるような職種が院内で連携しています。臨床検査技師は、患者様と接する機会が少ない職種ですが、患者様の不安や負担が少しでも軽減されるよう努めています。

「手足のしびれ」がある方はおられますか？



手首中央部が圧迫されると手根管症候群を発症します。進行すると神経麻痺が生じ、物をつまむことができなくなります。安静やステロイド剤の局所注入で効果がなければ、手術で治療する場合があります。当院ではしびれや痛みに対して神経機能を検査できる機器を導入しています。症状が気になる方は整形外科・総合診療科へご相談下さい。